

平成23年

季刊

新春号

Vol.36

亜東



中華航空 羽田～松山線就航記念セレモニー：羽田空港国際線ターミナル



社団法人亜東親善協会

The East Asian Friendship Association

季刊亜東	新春号	目次	二頁
亜東親善協会の概要・変遷	政戦略のない国家は滅ぶ	三頁	
二〇一一年 元旦祝辞		四頁	
台北駐日経済文化代表處・所在地		五頁	
羽田く松山便就航について		六頁	
青年局を通して深めた台湾との絆		七頁	
ガジュマルの思い出		八頁	
日台のさらなる友好関係に期待		九頁	
二〇一一年 新春祝辞		一頁	
中華民國百年の歴史における孫文・蒋介石と日本		二頁	
台湾訪問団報告		三頁	
留学生・国会議員顧問交流会		四頁	
二〇一一年 年賀広告		五頁	
顧問国会議員・関係団体顧問・役員名簿		六頁	
お知らせ	編集後記	七頁	

社団法人 亜東親善協会の概要

名称 社団法人 亜東親善協会

(英文名 The East Asian Friendship Association)

事務所 東京都千代田区平河町二一七―五 砂防会館四階

(必要に応じ支部を設ける)

目的 会員相互の親睦並びに我が国とアジア諸国との

経済、文化の提携、交流を通じ、友好親善の増進を図る。

事業

① 我が国とアジア地域諸国との政治、経済、文化に関する調査研究及び講演会、研究会の開催並びに研究資料の出版

② 我が国とアジア地域諸国との文化、芸術の相互の紹介

③ 我が国とアジア地域諸国との経済協力の推進に必要な情報の収集及び幹旋

④ 我が国に在住するアジア地域諸国民の生活相談

⑤ アジア地域諸国からの在日留学生にたいする進学の幹旋

⑥ その他本会の目的を達成するために必要な事業

亜東親善協会の変遷

社団法人亜東親善協会は、民主主義と自由経済を信条とするアジア人同志の交流を深める目的で、昭和二十四年（一九四九年）東京に設立された『華南倶楽部』が発祥です。

第二次世界大戦後の激動の時代でしたが、会員はひたすらアジアの平和と繁栄を希求し、友愛と信義を基調とした国際関係の樹立に努力を続けて参りました。

その結果、この趣旨に賛同する有識者が次第に増加し、活発な活動とともに組織拡大の一途を辿りましたが、昭和四十七年（一九七二年）の日中共同声明は、アジアの政治情勢のみならず、在日アジア人の日常にも大きな変化をもたらしました。

その前年即ち昭和四十六年（一九七一年）、千葉三郎先生（衆議院議員、労働大臣）は、倶楽部を強化発展させる必要を痛感し、岸信介先生、福田赳夫先生、灘尾弘吉先生らと諮り自ら發起人となり同年五月二十九日『社団法人亜東親善協会』（外務省認可）を設立したのであります。

千葉先生の引退後、原文兵衛先生が参議院議長の大要職のまま会長に就任され、内外の信望を集めました。その後、原先生の意を受け、永年衆議院で活躍された藤尾正行先生が会長を引き継がれ、幾多の変遷を経て参りました。

現在、日本を始め東アジア諸国は、台湾海峡問題と北朝鮮の核問題という二つの問題があります。この両問題には中国は大きく関わっています。かかる情勢の中で本協会の目的達成事業が発展することは、アジアの繁栄と平和に貢献するものと信じております。平成十三年まさに二十一世紀の幕開けを期して、玉澤徳一郎先生を迎え、さらに陣容を強化し、英知を結集して努力を続けている次第です。

政戦略のない国家は滅ぶ



社団法人亜東親善協会

会長 玉澤徳一郎

会員の皆様 新年明けまして
おめでとうございます。本年も、
昨年同様、よろしくお願い申上
げます。

さて昨年は、まさに国の存立
は何によつて成立っているかを問
われる一年でありました。

尖閣列島事件に対して、民主

党政権のとつた対応は、まさに、
わが国の政戦略（政Ⅱ政治外交
戦略、戦Ⅱ軍事戦略）を問われ
るものでありました。

領海侵犯して海保の巡視船に
体当たりしてきた漁船を拘留逮
捕しておきながら、中国から報
復措置をとられると、すぐ軟化
して、船長を釈放した。

証拠として撮ったビデオを国
家機密にして、国民に非公開と
した。

これに怒つた一保安官が、国民
に公開したところ、これを公務
員法違反で罰しようとしたこと
である。

これこそ本末転倒の措置とい
わざるを得ない。

もし日本が普通の国であるな
ら、国民にビデオを公開して、こ
んな不法なことをやつたので、法
にのつとり厳然処罰すること
を伝え、国民の支持と覚悟をとり
つけ、外国にむかつて、この事
実を喧伝し、外交的支持をとり
つけ、国を守る決意を内外に示
すが、政戦略の眞の姿である。

そして総理は、国を守つた海上
保安庁の職員をよくやつたと感
謝状を贈つて、士気を高めること
が当然のなすべきことである。

それが全く逆のことをしてしま
つたので、国民の憤激をよび、支
持率二〇%以下におちてしまつ
た。

政戦略のない総理は、国を滅ぼ
す因をなすのである。

このような総理のもと政権は
国家国民のため、一日も早く交
替をはかる必要がある。

わが国は、今日、北朝鮮の核の
脅威と中国の軍事的圧力、ロシア
の領土的圧力の眞最中にある。

今こそ、日米安保体制を中心と
して、友好各国台湾も含めてと
の協調をはかり、日本の安全とア
ジアの平和を確立するための政
戦略を練り、確立することが、
求められている。

本年は、そのこのために研鑽
努力することを誓うものであ
る。

二〇二一年元旦祝辞



台北駐日経済文化代表處

代表 馮 寄台

亜東親善協会の皆様、謹んで
新年のお祝いを申し上げます。

昨年は台日間の距離がより近
くなった一年でした。四月に当
代表処内に「台北文化センター」
が開設され、十一月から十二月
にかけては、台湾の若手芸術家
の作品を日本の皆様を紹介する
目的で、当代表処公邸一階が「芸

文サロン」として初めて一般公
開されました。今年も引き続き
「芸文サロン」で展示を行う予
定です。

一昨年は台湾南部を襲った台
風による「八八水害」のため、
毎年十月に開かれる国慶節レセ
プションを中止しましたが、昨
年は盛大に開催され、日本の政
財官界、文化・学術界、メデイ
ア界、並びに日本在住の僑界な
ど各界から一六〇〇名もの方々
が一堂に集い、中華民國の双十
国慶節をお祝いしました。

十月三十一日には、台北松山
空港と東京羽田空港を結ぶ一日
八便の直行便が就航し、台北と
東京がますます近くなりました。
昨年の台湾から日本への旅行者
数は百四十万人に達すると見ら
れ、前年比で二十数%増加して
おり、日本から台湾への旅行者

数も一一〇万人近くとなり、前
年比で約六%成長する見込みで
す。また、昨年の台日間の貿易
額は、六〇〇億米ドルを超え、
台日間の往来はますます緊密さ
を増しています。

台北松山—東京羽田の航空路
線を利用して、昨年は日本から
たくさんの方の国会議員の先生方が
台湾を訪問されました。このほ
か、昨年は王金平・立法院長(国
會議長)をはじめとする台湾の
立法委員(国会議員)も日本の
各政党を訪問し、議員交流を深
めました。

昨年十一月は、横浜でアジア
太平洋経済協力(APEC)首
脳会議が開催され、台湾からは
元副総統である連戦・首脳代表
が馬英九総統の代理として出席
しました。連戦・首脳代表はそ
の他参加国元首らと同様の待遇

を受け、APECに参加した各
国の首脳とアジア太平洋地区の
経済・貿易関係の強化のテーマ
について十分な意見交換がで
きました。

私は昨年、北海道から苫岐ま
で、日本のさまざまな地方を訪
問しましたが、日本人の台湾に
対する熱烈的な歓迎ムードに深く
感動しました。

今年は辛亥革命から一〇〇年
目にあたり、台湾の国内外で中
華民国建国一〇〇周年を記念す
るさまざまな祝賀行事が開催さ
れます。日本でも一月から各地
でさまざまなイベントが企画さ
れています。

また、国立故宫博物院の日本
展実現に向けて現在準備を進め
ており、各界から大きな支持
をいただいております。目下、

日本の国会での文物保護関連法律の通過を待つ段階であり、故宮博物院の文物をこよなく愛してくださる日本人に一日も早くご披露したいと念願しております。

今年、私は三つの大きな願いがあります。

その一つ目は、より多くの日本の民間団体の方々に台湾を観光していただくことです。

二つ目は、日本と台湾の国会議員が密接に交流し、相互往来を強化することです。

三つ目は、日本は辛亥革命を成功に導いた重要な根拠地でもあるので、日本の皆様にぜひ台湾にお越しいただき、共に中華民国建国一〇〇周年を祝うことです。

私は駐日代表に就任して今年で三年目となりますが、これま

で日本人の台湾に対する友情と台湾の国民の日本に対する親近感を深く感じました。これからも引き続き、台日間の文化、経済・貿易、学術、観光、青少年などの台日交流を積極的に推進してまいります。

最後になりましたが、今まで亜東親善協会の皆様から多大なご指導、ご協力を賜り、衷心より感謝申し上げますとともに、今後とも引き続きご支援、ご鞭撻のほど御願ひ致します。

今年一年が素晴らしい年となりますよう、皆様のご健康を祈念し、中華民国と日本の友好関係強化を願い、新年の挨拶とさせていただきます。

【台北駐日経済文化代表處

中華民國一〇〇年元旦】

台北駐日經濟文化代表處

東京都港区白金台五・二〇・二

代表番号

電話 〇三(三三八〇)七八二一

渡航査証

電話 〇三(三三八〇)七八〇〇

僑務部

電話 〇三(三三八〇)七八二一

文化部

電話 〇三(三三八〇)七八三〇

広報部

電話 〇三(三三八〇)七八四〇

經濟部

電話 〇三(三三八〇)七八八四

科学技術部

電話 〇三(三三八〇)七九一〇

秘書部

電話 〇三(三三八〇)七八二一

台北駐日經濟文化代表處

横浜分處

横浜市中区日本大通り六〇

朝日生命横浜ビル二階

電話 〇四五(六四一)七七三六

台北駐大阪經濟文化辦事處

大阪府西区土佐堀一・四・八

日栄ビル四階

電話 〇六(六四四三)八四八一

台北駐大阪經濟文化辦事處

福岡分處

福岡市中央区桜坂三・二一・四二

電話 〇九二(七三四)二八一〇

台北駐日經濟文化代表處

那覇分處

沖縄県那覇市久茂地三・一五・九

アルテビル那覇六階

電話 〇九八(八六二)七〇〇八

台北駐日經濟文化代表處

札幌分處

札幌市中央区北四条四・一

伊藤ビル五階

電話 〇一一(二二二)二九三〇

羽田⇄松山便就航について

社団法人亜東親善協会副会長

参議院議員 大江 康弘

新しい年を迎え謹んで、新春のご挨拶を申し上げます。旧年中は皆様には日本・台湾両国の友好親善に格別のご尽力をいただき、又、当会の運営に深いご理解とご協力を賜わり、厚く御礼申し上げます。

亜東親善協会は千葉三郎先生はじめ先人の皆様のご努力により、昭和四六年五月に外務省より社団法人として認可され、四〇周年を迎えることが出来ました。本年、中華民国建国百年の記念すべき年を心より慶賀申し上げます。

さて、昨年、東京羽田⇄台北松山便が就航いたしました。羽田空港の再拡張事業(全体事業費は着工時試算で六九〇〇億円)における四本目の滑走路の

整備に伴い一〇月三二日から待望久しかった国際線定期便の運航が始まりました。

就航路線はアジア(台北・ソウル・シンガポール他六都市)、米州(ニューヨーク・ホノルル・ロサンゼルス他三都市)、欧州(パリ・ロンドンの二都市)となり、さしあたって一ヶ国の一七都市から順次結ばれています。その中に台湾(松山空港)が一日八便就航されます。

馬英九政権が誕生して二年余ですが、この間日本との間にいくつもの懸案であった政権課題が解決、前進しております。主なものを挙げてみると

- ① 短期滞在(九〇日)査証(ビザ)の免除(日・台双方で)
- ② 運転免許証の相互承認(〇八年一〇月)
- ③ ワーキングホリデービザの相互導入設置(〇九年六月)
- ④ 台北文化センターの設置(これはニューヨーク、パリ

に次いで三番目であり、アジアでは最初である)

- ⑤ 札幌に領事館の開設(大阪、福岡、沖縄に次ぐもので、開館式にはわざわざ立法院の王金平院長が来日し、ご出席されるほどの力のいれようであった)

そして、今回の羽田⇄松山間の新路線の就航と、日・台間の信頼関係が着々と進んでおります。今回の就航にあたり、私は日華懇(平沼赳夫会長の祝賀議員団の団長として参加し、第一便に乗せてもらいました。

もとより台湾からの訪日者数は韓国に次いで二番目で約一〇二万人、また、日本からの訪台者数も約一〇〇万人を数え年々増加しており、台湾からの留学・者の数も約二〇万人と、活発な人的・文化的交流が両国間で続いています。

今回の就航は利用される皆さんはご存知の通り、従来は成田

からで、非常に遠くて不便であり、時間もかかりました。台湾の桃園国際空港も市内まで約一時間と双方とも遠く、不便であったが、松山空港は約一五〜二〇分で市内に行けるなど、大変近く便利であり双方とも利便性が高く、より両国間の交流が進んでいくものと期待されています。このような日々の交流の積み重ねこそが、互いの信頼関係の強い絆作りに貢献していくものであり、更に両国間の距離が縮まっていくことでしょう。

私も今回、記念すべき第一便で台湾へ訪問できたことを心から慶びながら、これからも日本にとつて大切な国である台湾との友好、親善の為に、更に努力していきたいと思っております。終わりに、新しい年が皆様方にとりまして希望に満ちた、大いなる発展になりますことをご祈念致します。

青年局を通して深めた

台湾との絆

社団法人亜東親善協会顧問

自由民主党 衆議員議員

井上 信治

新年明けましておめでとうございます。
ざいます。

亜東親善協会の皆さまには旧
年中も大変御世話になり、心か
ら御礼申し上げます。

今年には中華民国建国百周年で
あるとともに、日台両国間の友
好のため大変重要な役割を担っ
てきた亜東親善協会の社団法人
化から四十周年の記念すべき年
でもあり、亜東親善協会のます
ますの発展を期待しています。

私は、昨年まで、自民党青年
局長を三期三年間務め、日台政
党間交流の日本側窓口として皆
さまと活動を共にして参りまし
た。

自民党青年局は、四五才以下
の自民党員で構成する、全国約
二〇万人の大きく活気のある組
織であり、日台友好の架け橋と
なってきました。また、一九五五
年の自民党立党以来の長い歴史
を有し、その間、連綿と続いてき
たその関係は、日台両国の政権
交代後も良好な状態を維持・発
展し、今日に至っています。

私もこの立場を通して、多くの
日台政治家や財界人らと知遇を
得るとともに、何物にも代え難
い貴重な経験を積むことができ
ました。これもひとえに皆さま

方のご支援あつてのことだと、心
から感謝しています。

青年局長三年間の任職中、一
〇度を超える訪台を果たし、昨
年も自民党青年局海外研修、自
民党東京都連青年部・青年局海
外研修、羽田・松山間航空路線
の就航記念式典への出席と、三度
にわたって台湾を訪れました。

その度に台湾の皆さまの歓待
を受け、温かく接していただいた
ことは、私の心に強く印象づけら
れています。

九月に日中両国間で生じた尖
閣諸島沖での海上保安庁巡視船
と中国漁船との衝突事件では、
日本、台湾、中国が領有権を主
張する同列島周辺海域を巡って、
日中間に一触即発の事態が生じ
ました。

その直後、青年局メンバーと一
緒に訪台し、馬英九總統を始め
とした台湾政府要人と会談しま
したが、皆さまの節度ある対応
と地域の安定に対する強い思い
を痛切に感じました。

日台両政府の尖閣諸島に対す
る各々の立場もありますが、腹
藏ない意見をぶつけ合うことに
より、むしろお互いの理解が深ま
り、日台友好、ひいてはアジアの
友好と発展を築いて行くことが
できるのだと、あらためて確信す
ることができました。

最後になりましたが、中華民
国建国百周年の本年が、亜東親
善協会と日台両国関係者の皆さ
まにとって最高の一年となりま
すよう心から祈念致します。

ガジュマルの思い出

社団法人亜東親善協会顧問
衆議院議員 大野 功統

台湾は、私の生まれ故郷である。

一九三五年に、私は、台北市東門町一八八番地で生れた。

父が、台湾総督府に勤務していたためである。

五歳の時、祖父が亡くなったため、一時、日本（香川県豊沢町）に帰国していたが、一九四六年、小学校五年生の三学期に日本へ引き揚げてくるまで、私の生活の舞台は、台湾であった。

まず思い出すのは、ガジュマル（榕樹・クワ科の常緑高木）である。下っ端役人のおやじに与えられた官舎の二坪ばかりの前庭にもガジュマルの木が一本植わっていた。ガジュマルの木陰で仲間とよく遊んだものだ。

次は、アヒル。近所には台湾の方が多数住んでいて、そこへ遊びに行くとアヒルが沢山いた。母親から私がよく聞かされた話がある。「ヨシちゃん（私の名前がヨシノリであるので、私はヨシちゃんと呼ばれていた。）、ヨシちゃんが丈夫に育ったのは、毎日アヒルの卵を一箇食べていたからだよ」。私は台湾のアヒルに今でも感謝している。

しかし、なによりも強烈な台湾の思い出は戦争だ。

小学校二年生の時に、台北市も空襲が激しくなつて、集団学童疎開を経験した。山奥の小学校の講堂の中で、百人以上の仲間と一緒に雑魚寝をした。朝食はニギリめし一箇。午前中、二時間ほど勉強したあと、午後は、近所の小川で魚獲りだ。そして獲った魚が、晩メシのおかずであった。ひもじい毎日である。

空腹に耐えかねて、子供なりに智慧をはたらかせた。私は、便所の窓から持っていた下着を差し出し、その代りに台湾の子供から台湾モチを貰って飢えをしのいだ。

終戦後は、日本人の学校は、完全に閉鎖された。学校が再開されたのは一九四六年の四月からであったが、それまでの間、仲間と一緒に、空襲で崩壊したレンガ造りの屏のレンガからセメントをこそぎ落し、レンガを再生させるアルバイトをした。

また、いずれ日本へ引き揚げるのであるからと、家財道具を道端に並べて、大陸からやってきた中国の兵隊さんに、「この品物は良いよ」と片言の中国語でセールスをやった。私が初めて習った外国語は、中国語である。やがて日本人学校が再開するこ

ととなるが、その頃教えてくれた先生の言葉を今でも覚えている。先生は、言った。「君たちが、戦争の悲惨さを体験する最後の世代となつてもらいたい。そのためには、君たちのこの戦争体験を次の世代へと語り継いでいってもらいたい。戦争の悲しみを、絶対に風化させてはならない」。

ありがたいことに、戦後、日本は、戦争に巻き込まれることもなく、平和国家として繁栄への道を歩み続けてきた。さらに感謝すべきは、台湾の人々の対日感が極めて良いことである。

しかしながら、今、われわれは歴史の曲り角に差ししかかっている。このことを十分認識しなければならぬ。国際的に見て、日本の地位が段々と低下してきているのだ。言うまでもなく、国の力というのは、防衛力と経

済力である。

かつて国際競争力は世界で一番であった日本は、今や、二十七位に落ち込んだ。GDPに占める日本のシェアは、一四・三パーセントが八・九パーセントに下がった。日本企業の海外シフトは、もはや常識である。

経済の分野では、国境という垣根はなくなってしまった。日本は、経済構造を改革し、国際競争に耐えていく必要がある。と同時に、国際協力を忘れてはならない。繁栄を支えてくれるのが安全保障である。

日本は、日米安全保障条約のもと、平和国家としてこれまでの道程を歩んできた。平和国家として、国益を守るための国対国の戦争は、絶対してはならない。

しかし、世界は変わってきた。二〇〇一年のテロリストのニューヨーク世界貿易ビルへの攻撃

は、ブッシュ米大統領を「これは新しい戦争だ!」と叫ばせた。

また、北朝鮮のように核能力やミサイルを持つ専制主義国は、平和と民主主義によって成り立つ国際社会の共通の敵である。日本も、国際社会の一員として戦っていかねばならない。

マラッカ海峡や台湾海峡の安全も国際協力の中で守っていかなければならない。私は防衛庁長官時代、アメリカとの交渉の文書の中で台湾海峡の問題についてもふれさせていただいた。

私の大好きな言葉に、「自利利他」という言葉がある。私は、この言葉こそ国際社会の中で生きていかねばならない日本にとって、その心構えを示唆するものだ、と信じている。

なぜ遠くイラクの国に日本の自衛隊を派遣したのか。イラク

の平和は、中東の平和である。

そして中東の平和は、世界の平和なのだ。その世界の平和の中に日本の平和がなりたつ。

私は防衛庁長官として、イラクへの自衛隊の派遣をこのように説明させてもらった。また、海外へ向けては、自利利他という言葉を次のように英訳理解を求めた。"Benefit others, and you'll benefit from others!"

「日本の自衛隊は、極東から平和と安全を中東に運んでくれる平和の鳩だ」。私は、このような感謝の手紙をイラクの要人から度々いただいた。日本は、大きな信頼をイラクから得たものと思う。

今、日本にとって最も大切な視点は、基本的、長期的そして国際的視野である。資源のない日本が生きていくために一番必要な視野は、なにかなく、国際

的視野である。戦争を放棄した日本の安全保障は、国際的な対話である。言うべきことは言うが、相手の言うことにも十分耳を傾けることである。そこに信頼関係が生れるのだ。

私が生れた台湾。

私をガジュマルとアヒルの卵で育ててくれた台湾。戦争は絶対にしてはならない、と私に教えてくれた台湾。これからの日台関係は、ぜひとも「自利利他」の関係にしていきたい。

二〇一一年は、中華民国建国百周年の記念の年である。百周年をお慶び申し上げると共に、これから先のさらなる百年、世界平和とアジアの平和の中で、日本も台湾も、自利利他の精神で、平和と繁栄を享受し続けられることを心からお祈りするものである。

日台のさらなる友好関係に期待

社団法人亜東親善協会顧問
参議院議員 松下 新平

今年には中華民國の記念すべき建国百周年、並びに社団法人亜東親善協会設立四十周年を皆様とともに迎えられますことを大変嬉しく思います。誠におめでとうございます。

亜東親善協会の玉澤徳一郎会長をはじめ歴代役員の方々並びに会員の皆様が日頃から、日台友好関係にご尽力いただいております。事に敬意と感謝を申し上げます。

このおめでたい年を迎えるにあたり、二〇一〇年には日台間で重要な発展がございました。

それは、台北松山空港と東京羽田空港を結ぶシャトル便の就航です。これは日台間の日帰りも可能にし、両国の一層の連携を加速させるものです。

私も自民党青年局国際部長として就航記念式典に出席させていただき、馬英九總統表敬訪問や救国団創立五八周年記念式典出席など交流の機会をいただきました。

日台航路の歴史を振り返れば、感慨深く、また関係強化のための強力な手段を手に入れたことで、新たなステージが始まったと感しております。

日台両国は申すまでもなく重要な貿易パートナーでもありませんから、シャトル便の就航は、経済関係の更なる強化に直接繋がると期待されています。

台湾は、アジア市場に活路を見出そうとする日本企業や自治体の注目の的であります。世界的金融危機後の不況からいち早く脱し、IMFの推計では、一人当たり国内総生産が年内に日本を抜くとされます。中国市場で競争力を持つ台湾企業と日本企業の合併などによる協業は、中国

進出における課題を克服する手段になりえると言われております。

二〇〇九年六月の台日ワーキングホリデー査証制度の開始、一二月の駐日代表所札幌分処開設、そして二〇一〇年四月にはニューヨーク、パリに次ぎ三カ所目となる台北文化センターの開設と次々と日台関係強化のステップが踏まれてのことです。特に馮寄台北駐日経済文化代表処代表の縦横無尽な活躍はお見事の一言です。

また、昨年は、日本外交に様々な問題が生じました。尖閣諸島問題に関しては、「中国と連携せず、尖閣の海洋資源に関しては、共同開発が最適であり平和的解決を」と馬總統は発言されています。東アジアの平和と安定においても日台関係の重要性を再認識しております。

私もお陰様で、昨年の参院選で

再選を果たす事が出来ました。二期目に当たり自民党青年局長の他に、参院自民党副幹事長や総務委員会筆頭理事などの要職に就任致しました。私もまだまだ微力ではありますが、これまでの感謝の気持ちを大切に日台友好関係の更なる発展に尚一層尽力して参る所存です。

最後になりましたが、昨年甚大な被害をもたらした宮崎県で発生した口蹄疫被害に対し、台湾側を代表され、馮寄台駐日台北経済文化代表処代表からお見舞いのお言葉と多額の義援金の贈呈をいただきましたことに、宮崎県民を代表いたしまして心よりお礼申し上げます。

今後ともさらなる日台友好関係の安定と繁栄と関係強化のために、亜東親善協会の益々のご発展と会員皆様方のご健勝、ご活躍を心よりお祈り申し上げます。

二〇二一年新春祝辞

社団法人亜東親善協会顧問
参議院議員 山本 順三

新年明けましておめでとうございます。あわせて、本年が中華民国建国百周年を迎える年であり、それを重ねてお慶び申し上げます。

中華民国にとって、この百年は、政治、経済、文化の多くの課題を克服しての今日であり、大きな節目を迎えられますことに、隣国の友人として心からのお祝いを申し上げます。

本年は、官民一体となった、国を挙げての様々な祝賀イベントが用意されていると伺っております。多くの皆様方の協力により、これらの行事がつつがなく大成功を収められますことを

お祈り申し上げます。

また、この百年には日本も大きく関わってまいりました。そして、その関係の象徴ともいえるべく、「会員相互の親睦並びに我が国とアジア諸国との経済、文化の提携、交流を通じ、友好親善の増進を図る」目的で誕生した亜東親善協会も、一昨年、創立六十周年、本年は、社団法人化から四十周年を迎えることができました。

このような活動と、先人たちの弛まぬ努力により日台友好関係は培われて今日を迎えるに至っております。先輩諸兄に対し敬意を表しますと共に、我々がさらに親密なる友好関係を構築していかなければならないと思いを新たにいたしております。

今、世界は激動の時にあり、各国がこのアジアを注目してお

ります。そのような中で昨年は、APECが日本の横浜で開催され、我が国は議長国として各国首脳をお迎えしました。今後ともアジア・太平洋地域の安定と繁栄を図るべく努力をして行かなければならないと考えております。

しかし、この地域には多くの課題も混在しております。日台関係が、共に手を携えていけるパートナーであることが、この地域の安定と発展には欠かすことのできないものであると確信いたしております。

台湾が兩岸経済協力枠組み協議を締結したことにより、台湾企業の対中ビジネスへの競争力が増したと同時に、日本企業にとっても新たなビジネスチャンスが生まれる等、日台の経済・貿易関係はより緊密になっております。

また観光交流も極めて親密であり、日本から百万人を超える人々が台湾を訪問し、台湾からも百十数万人の人々が日本を訪問しております。昨年は東京羽田空港と台北松山空港の直行便も就航されるなど、日台友好関係はさらに促進され、親密さを増すこととなりました。

そして、なにより日本と台湾は自由と民主主義、人権の尊重など価値観を共有している隣国であります。相互協力を深めつつ、日台両国がますます安定して緊密になることを切望してやみません。

終わりに、今年一年が素晴らしい年となり、皆様方のご健勝とご多幸を心からお祈りいたしますと共に、日台両国のさらなる友好と発展をご祈念いたしまして、新年のご挨拶とさせていただきます。

中華民國百年の歴史における

孫文・蔣介石と日本

社団法人亜東親善協会副会長
元中華民國立法委員 張建國

中華民國百年にあたり、百年の歴史の中で日本と特に関係の深かった中華民國の指導者である國父・孫文と蔣介石の両者の日本との関係を振り返る。

両者とも日本に滞在した経験を持ち、日本の文化精神に共感し、日本との協力連携を以って中國の革命を成功に導こうとの志を十分に果しえなかった歴史である。

尚、中華民國においては、孫文は孫中山、蔣介石は蔣中正と呼ぶのが一般的であるが、日本において一般的に通用している孫文、蔣介石の姓名によって記述することとした。

國父・孫文（孫中山）と日本

孫文は一八九四年アメリカ・ハワイで興中会を組織した。翌年、一八九五年の広州における武装蜂起に失敗し日本に亡命。その後アメリカ、イギリス等に渡り、革命資金を集める為に世界を巡った。一八九七年、横浜において在日華僑学校（現・横浜中華学院）の創立に際し、その学校名「中西学校」を孫文が命名した。世界各地を巡る際に、日露戦争における日本の勝利が有色人種の意識向上に役立っていることを感じ、日本に学び一九〇五年八月二〇日、東京赤坂靈南坂の坂本金彌宅にて興中会、光復会、華興会を糾合して中國革命同盟会を結成することとなる。孫文の革命思想の大きな根源は日露戦争による日本の勝利に啓発されているといつてよい。

一九一一年一〇月一〇日、武昌起義が成功、各省がこれに呼応して辛亥革命に発展した時、孫文はアメリカに滞在していた。孫文は一二月二五日に上海に帰り、一九二二年一月一日、孫文を臨時大統領とする中華民國が南京を首都として成立した。

しかし、この時点では北京にまだ清朝が存続した状態であり、同年二月一二日に清朝皇帝である溥儀が退位することにより、中華民國政府が全中國を代表することとなった。

しかしながら、当時の中國國內は南北分裂状態にあったため、臨時大統領職を清朝の実力者であった袁世凱に譲った。袁世凱の独裁が始まると、反袁世凱を唱えて活動するが、その軍勢力に破れて、日本に亡命することとなった。

孫文は一九一三年～一九一六

年の日本に再度の亡命中、犬養毅に「明治維新は中國革命の第一歩であり、中國革命は明治維新の第二歩である」との言葉をおくっている。

孫文は逝去の前年の一九二四年、日本の神戸において「大アジア主義講演」を行い、欧米の侵略主義に対し、東洋の王道平和思想を説き、日中の友好を訴えた。

孫文は、辛亥革命以前より、逝去までの間、前後二一回訪日（日本統治下の台湾を含む）しており、日本ときわめて深い関係のあった人物であった。孫文の号である「中山」と言う名前は、孫文の日本滞在時代に名乗っていた「中山」姓に由来するといわれる。又、前述のように、孫文の革命思想は日本の「明治維新」「日露戦争の勝利」「自由民権思想」、更には「日本におけ

るアジア主義思想」等々による啓発を受け、終生にわたって日本との友好連携によって中國の革命を志した政治家であつたと云つてよいだろう。

最初に面識を得た日本友人は、ハワイにおけるキリスト教牧師の菅原傳であつたとされるが、一八九七年八月に来日して以後、

多くの日本の友人を得ることとなる。当時の民権党の指導者であつた犬養毅、そしてその紹介により、大隈重信などの政治関係者を始め、頭山満、平岡浩太郎、平山周、宮崎寅藏など多くの日本の友人・知人を得ることとなる。

一八九七年に日本に亡命した際には、宮崎滔天の紹介によって出会つた頭山満を通じて平岡浩太郎から日本での活動費と生活費の援助を受けることになり、

又、住居として早稲田鶴巻町の屋敷は犬養毅が斡旋した。一九一三年に再度日本に亡命した際、当時の日本政府は袁世凱支持であつたが、頭山が犬養を通じて山本権兵衛首相に交渉して亡命が認められ、孫文が匿われたには、頭山邸の隣家であつた。このように、頭山満とは前後にわたつて長い交際が有つた。

一九一六年袁世凱の死後、中國國內は群雄割拠の内乱状態となり、欧米や日本などの列強各国による半植民地化が進行、日本から出された対華二一か条要求の廃棄を求める五四運動などが起こる時代背景の中、一九一九年に中國國民黨を創建、一九二一年には広州で、その後の國民政府の基となる革命政府を樹立した。

一九二四年最後に来日して神戸において「大アジア主義講演」

を行つた前日、頭山と会見した際、孫文は頭山に対して、日本軍の中國東北部への侵攻に憂慮を表明し、日本軍の撤退を申し入れたと言われている。しかし、頭山は日本の拡大がアジア安定につながると考え、孫文の申し入れを断つたとされるが、翌日、孫文は日本に対する勧告とも言える 日本との協力を唱へた

「大アジア主義講演」を行い、その四ヶ月後の一九二五年三月一二日、「革命尚未成功、同志仍須努力」の遺言を残し、その志をまっとうすることが叶わず、満六〇歳の生涯を終えた。

尚、辛亥革命に際しては、それに賛同呼応した日本人も参加しており、一九一三年二月、孫文が来日して、辛亥革命で犠牲となつた最初の日本人である山田良政の葬儀に記念碑を建立している。

○孫文(号は中山、字は戴之)
(編集部)

一八六六年一月一二日

清国広東省香山県翠亨村の客家の農家に生まれる

ハワイにいた兄・孫眉を頼りキリスト教学校に学ぶ。

一八九四年 興中会を組織。

一八九五年 広州起義失敗

一八九七年 来日

一九一一年 武昌蜂起・辛亥革命に発展。

一九一二年 初代臨時大總統

一九一三年 再度日本に亡命

一九一五年一〇月二五日

革命運動の資金面で支援していた梅屋庄吉夫妻の尽力により客家の宋嘉樹の次女宋慶齡と結婚。

一九一九年 中國國民黨創建

一九二四年 神戸・大アジア主義講演

一九二五年 北京にて客死。

南京に葬られた。(中山陵)

蒋介石（蔣中正）と日本

一九〇六年四月、蒋介石は最初の来日、清華学校に学ぶが数ヶ月に帰国し、陸軍学校に入学的の後、陸軍の公費留学生として、一九〇八年春、再度来日、振武学校に入学した。振武学校における二年半の予備課程を終了後、

一九一〇年十二月、同級生であった張群など一六人と共に、二四歳で新潟県高田の大日本帝国陸軍第二三師団野砲兵第一九連隊の士官候補生となるが、翌一九一一年一〇月、上海の革命指導者であった陳其美の呼びかけに応じ、同窓生の張群など帰国し、革命に参加することとなる。

蒋介石は日本留学の期間中、日本の教育、事務能力を学び、その後の中國の軍規の確立や教育の基礎とした。一九六九年、蒋介石が台湾において日本の御

手洗辰雄のテレビ取材を置けた際、「私は永年にわたって日本の忠義報國の伝統精神を慕い、日本の敬老尊師、義を重んずる民族性が好きであり、日本は私の第二の故郷である。」と述べている。

又、蒋介石は日本滞在中の自分を述懐して、「新潟県高田における厳格な軍事訓練の生活を述懐し、私は二四歳で日本の野砲連隊に派遣され、一年入隊した。その一年の間、受けたのは完全な士兵としての生活で、極端に単調で厳肅、規律の拘束であり、単調で乾燥無味な生活は、当時の私には大変に不合理だと感じたものである。

しかし、今、私がそれを思い起こすと、私が平生生活が簡単にでき、四〇年一日のごとく仕事ができるのも、あの一年間の

士兵生活の訓練で築く上げた基礎によるとは確かである。私が生涯、今日のこのような固い忍耐と、何をも恐れない革命の意思と精神を持てるのは、まさにあの一年の士兵生活のおかげである。もしも、あの一年の経験が無かったら、協のこのような革命事業は有り得なかっただろう」とも述べている。

一九一三年から一九一九年の袁世凱討伐の期間中、一九一四年に来日し、東京のみならず東北地方にも行っている。その後、一九一九年一〇月、孫文の命を受けて日本を訪問し、寺尾亨、管野長和、頭山滿などと東アジア情勢について議論を交わし、又、孫文を代表して病床に有った犬塚信太郎を慰問し、同年一月一九日に上海に帰った。

一九二五年の孫文の死後、國

民革命軍の最高司令官に就任し、一九二六年七月、群雄割拠状態にあった中國を國民黨の下に統一することをなす為の北伐を開始した。

しかし、一九二七年三月二三日、南京攻略の際、外国人が負傷する事件が発生したことにより、米英の軍艦が南京に向けて発砲する事件が発生、時の日本の幣原喜重郎外相は中國内政不干渉の立場から欧米が提議した「共同出兵」「最後通牒」には加わらなかったが、日本軍閥は幣原外相を軟弱外交だと批判、その後成立した日本政友会の田中義一内閣は、幣原の政策を批判して対華積極政策に転じ、國民黨による北伐に干渉する方針をとった。

一九二七年八月、蒋介石は國民黨内部の団結を促進する

為、総司令を下野、九月二八日に来日した。この訪日の主たる目的は日本の政治経済の考察と日本の友人との面会であり、この訪日が蒋介石最後の来日となった。この間、「日本国民に告ぐ書」を発表し、「日本の七千万の同文同種の民族が、中國の革命運動に対して徹底的に理解を深め、道徳的精神的援助を求む」

「中國革命成功の遅れは、中國の禍であり、貴国（日本）との安定と密接な関係があり、輕んじてはならない。故に、私が兩国の国民に強く望むのは、共に努力して東アジアの平和の責任を果たすため、迅速に中國國民革命を完成することである」と唱えている。

同年十一月五日、蒋介石は田中義一首相と会談。蒋介石はこの会談に大きな期待を抱いていたが、結果は蒋介石を失望させ

るものであった。十一月八日、蒋介石は神戸より帰国し、國民革命軍總司令の職務に復帰することとなった。

北伐の期間、日本の田中義一内閣は途中、出兵して北伐を妨害する行動に出るが、蒋介石は一九二八年北伐を完成させ、國民政府主席に就任した。蒋介石の基本政策は反共、対日・対米英善隣外交であり、当時は滿州國建國を容認する意向であった。

一九二九年六月、日本は中華民國國民政府を承認。同年七月、日本は浜口雄幸内閣が成立し、再び幣原喜重郎が外務大臣に就任、兩國関係に曙光が見えたかに思えた。しかし、日本の軍部は「幣原軟弱外交」を激しく批判、中國に対して強政策をとるようになり、一九三一年五月から七月の間に発生した萬宝山事

件、六月から八月に発生した中村大尉殺害事件を契機に緊張が激化、ついに九月一八日、日本の関東軍による柳条溝事件（九一八事変）に発展してしまふ。

一九三二年三月九日、滿州國が建國されるが、滿州國は日本が一切の権限を握り、日本の武力脅威によって成立した傀儡國家だとして、中華民國國民政府は滿州國を承認しなかった。一九三三年春、日本は華北に侵攻。中國は対日防衛戦に備えざるを得ない状況となったが、同年五月三十一日、日本の関東軍の岡村寧次代表と華北停戦協定を締結し、暫時局面の安定を図った。

しかし、その後も日本軍部の進出拡大は続き、一九三四年二月、蒋介石は「敵か、友か」という日本に対する忠告文を発表する。蒋介石はこの時点にお

いても、日本との局面打開を期待していた。蒋介石のこの忠告書の発表後、一九三五年一月二日、日本の広田弘毅外相は国会演説で中日親善の願望をするが、同年一〇月には、「広田三原則」なるものを中國側に要求、又、日本軍部は軍事面で中國を更に圧迫する方策に出てくることとなった。

蒋介石は日本との対立を望んではいなかったが、日本軍部の勢力拡大はとどまることを知らず、一九三六年一二月の西安事件を契機として、対日政策、反共政策の見直しを迫られることとなる。翌一九三七年七月七日、盧溝橋事件が発生、遂に八年に及ぶ中國と日本の間の戦争に突入してしまった。

一九四五年七月二六日、中華民國、米國、英國の三国により

ポツダム宣言が発表され、日本に対し、日本の領土を本州、九州、四国、北海道の四島に限定し、日本の無条件降伏を促した。同年八月十五日、日本がポツダム宣言を受諾、八年にわたる中日戦争が終結した。

終戦後、蒋介石は敗戦した日本に対する「以德報怨」政策を中國國內に發布し、日本に対する賠償請求権を放棄、又、中國國內の日本の軍人・民間人の早期日本帰還を推進した。一九四八年五月二〇日、蒋介石は中華民國憲法実施後の第一代總統就任式において、日本への寛大政策を発表し、日本に対して何ら過分な要求をすることはなく、「八年以上の戦争が有ったが、日本との和平を図る」旨を述べている。

第二次大戦後の戦後処理に際

し、日本に対する中國軍駐留を放棄することで、日本の北海道に対するソ連の駐留を防ぎ、米國一国だけによる日本駐留を促したと言われる。又、日本の天皇制維持の必要性について強く支持をしたとされている。

戦後、一九五二年四月二十八日、台北において日本との間で、日華平和条約が締結された。

この日華平和条約の締結後、台湾に移った中華民國と日本は友好関係に基づき、密接な交流が行われた。蒋介石が来日することは無かったが、一九五七年には岸信介首相が台北を訪問、中華民國を訪問した日本の最初の首相となり、蒋介石と会談している。又、一九六四年には前首相であった吉田茂。同年には大平正芳外相、一九六七年には佐藤栄作首相が訪台し、それぞれ

れ蒋介石と会談している。

一九七二年、日本の田中角栄首相の中華人民共和国との国交樹立によって、日本と中華民國が国交断絶することとなったが、日本国民との友誼には影響することはないとし、日本の反共人士とは友誼を継続するとした。

一九七五年四月五日、蒋介石が逝去、その葬儀に際しては、日本は大代表団を組織、二人の前首相、岸信介と佐藤栄作、前衆議院議長石井光次郎、数十人の現職前職の国会議員が参列し、蒋介石と日本との関係の深さを示すものとなった。

上述のように、蒋介石もまた日本の文化と精神に深く傾倒し、日本との友好協力によって中國・アジア全体の改革を志した人物であった。

○蒋介石（名は中正、号は瑞元）
（編集部）

一八八七年一月三十一日

清国浙江省奉化县溪口镇

蔣肇聰と王萊玉との間に生。

一九〇七年 保定陸軍促成学堂

一九〇八年 日本・東京振武学校

一九〇九年 大日本帝国陸軍

一九一一年 辛亥革命に参加

一九二四年 黄埔軍官学校校長

一九二七年 上海・宋美齡と結婚

満州國建國承認

一九三六年 西安事件で軟禁

一九三七年 日中全面戦争へ

一九四三年 カイロ会談参加

一九四五年 抗日戦争勝利

一九四六年 国共内戦

一九四八年 中華民國初代總統

一九四九年 首都・台北に遷都

一九五〇年 再度總統就任

一九五二年 日華平和条約締結

一九七二年 日華国交断絶宣言

一九七五年四月五日

台北市士林官邸で逝去

台湾訪問団報告

羽田空港・松山空港就航記念

十月三十一日〜十一月三日

年間予定は、辛亥革命百周年記念として、十月十日中華民国双十國慶節祝賀式典に出席するため亜東親善協会國慶祝賀団を結成、訪台予定でありましたが、定員に達せず中止となりました

東京・羽田空港と台北中部部・

松山空港を結ぶ航空路線の定期便が十月三十一日から、航空会社四社一日八便が正式に就航することになり、協会では当日の第一便・中華航空に搭乗し、台湾最高峰・玉山(新高山)の日の出観賞を目的としました。

第一日目(一〇月三二日)

午前四時四五分、新宿集合組みは、京王百貨店前・リムジンバス乗場集合。本日より運行開始との

こと、五時一五分羽田空港着。

東京羽田空港と台北松山空港

への第一便は午前七時発の中華航空のC二二三便。羽田空港国際ターミナル搭乗口前で六時より「中華航空 羽田・松山線就航記念セレモニー」が行われた。

馮寄台・駐日代表、畠中篤・交流協会理事長、孫洪祥・中華航空社長、大西賢・日本空港社長らにより、テープカットが行われた

団長・大江康弘副会長は、猪瀬直樹・東京都副知事、日華議員懇談会国會議員らと別便、エバー航空・一〇時四五分発に搭乗。

中華航空のC二二三便には、

亜東親善協会一三名、東京都議會議員二五名および、留日華僑団体が搭乗、一〇時過ぎに松山空港着。空港内で交通部觀光局主催の歓迎式典。日本の祝

賀代表団を歓迎して記念撮影。



昼食は、台北県北部金山温泉八煙温泉会館で和食懐石料理。お造り、天麩羅、鮎の塩焼き、土瓶蒸し等々、日本でも滅多に食べられない内容でありました。食後、足湯で温泉魚(ドクターフイッシュ)が角質を突つき食べる掃除をもらう。少しくすくすいたい感じ。(二〇分、一〇〇元)



鄭麗君(テレサ・テン)記念公園視察



台北市内に戻り、國賓大飯店にチェックイン。ホテル内レストランで、王金平・立法院長主催、就航記念晩餐会が開催された。

夕宴には、日本の各代表団 超党派国会議員の「日華議員懇談会」、民主党「日台安保経済研究会」、「自由民主党青年局国会議員団」「猪瀬直樹東京都副知事」「東京都議員団」及び「亜東親善協会訪台団」等、総勢約九〇名が招待された。

祝宴の司会は、代表處業務部に居られた洪英傑元課長。

王金平立法院長の挨拶、昨年まで代表處僑務部に在籍していた王東生部長が通訳された。

日華議員懇談会 羽田・松山就航記念祝賀団団長 大江康弘参議院議員(協会副会長)が日本側を代表して祝辞を述べた。



王院長より、招待客全員に記念品が贈られ、その後、王院長は、祝宴会場の各テーブルを廻り、招待者全員と乾杯を交わされた



第二日目(一月一日)

朝食後、午前中は總統府参観。および市内視察(車窓)。

昼、台北國賓大飯店に戻る。

ホテル二階「国際廳」にて、外交部・交通部合同主催による「北東アジア黄金航空圏に向けて台北松山〜東京羽田航空路線祝賀レセプション」が開催された。

台湾政府関係者、立法院、台北市政府、台北市議会、そして日本各界、安倍晋三元総理、日華懇、自民党青年局等の国会議員。猪瀬直樹東京都副知事、東京都議員団、亜東親善協会訪台団が祝賀式に招待された。

馬英九總統、王金平立法院長の挨拶、安倍晋三元首相の祝辞等があり、約三〇〇名が出席した祝賀午餐會が始まりました。

台北駅発、台湾高速鉄道・商務席で、嘉義駅へ約一時間半の乗車



嘉義駅よりバスで阿里山へ
途中休憩を含め約三時間。

阿里山賓館着。 阿里山鉄道は
世界三大山岳鉄道の一つ。作年
八月の台風で現在本線修復工事
中、支線の阿里山駅と祝山駅は
運行中。標高二二〇〇米超のホ
テルでは、嘉義のコンビニで買った
ポテトチップスの袋がパンパンに膨
れて大気圧を感じる事が出来ま
した。



トイレについて、「トイレットペ

ーパーは便器に捨てること」遠
慮下さい」とあり、水圧が足りな
いか、ペーパーが日本のものとは
異なり水に溶けにくい為、下水
管が詰まるそうで、トイレ内に、
汚物専用箱が設置されて有りま
した。(カルチャーショック)

第三日目(二月二日)



翌朝、日の出に合わせ四時半

ホテル発。阿里山駅へ。祝山駅ま

で標高差二五〇米、約六km、三
〇分。日の出時刻六時半。気温
六度、上空は雲一つ無く、眼下に
は、神秘的な雲海が広がり、絶
景とはこのことかと感激でした。

ホテルに戻り朝食、出発まで阿
里山森林(三大木、象鼻木)散策



台中へ、北回帰線(北緯二三、
五度)表塔前で、記念撮影。



高さ約三〇米の弥勒大菩薩(布
袋様)が微笑む寶覺寺参観。



台中駅より台湾新幹線で台北駅へ。ホテルに荷物を預け、夕食会場故宮博物院内「故宮單華」へ。亜東関係協会の皆様をお招きしての協会主催の晩餐会を開催。料理の中には、博物院展示品の「翠玉白菜」を模した野菜料理。「肉型石佐勝瓜」そのもの中華風豚肉の煮込み等々。デザートも同じように展示物を模した点心が供され、台湾最終日の夜は、紹興酒も進み、友好親善が促進された楽しい一時になりました。



第四日目（二月三日）

最終日、密なる日程。朝食後立法院表敬訪問。院内で李鴻鈞立法委員とお遭い出来、議場前で記念撮影。講堂内で立法院のビデオでの説明視聴。

その後議場に案内され、議場演壇（TV中継で台湾名物？委員は自分の名前が背中に記したベストを着用しTVに映るべく与野党乱闘の場）に登壇し記念撮影をしました。

立法院議場



国父記念館前



国父記念館内



孔子廟・保安宮見学



免税品店に立寄り、松山国際機場に。中華航空で東京羽田空港へ。羽田空港に全員無事到着。お疲れ様でした。

留学生・国会議員交流会

開催日 平成三二年二月八日

本会目的達成のための事業に、アジア地域の在日留学生に対しての交流支援があり、昨年同様に台湾からの留学生を対象とした国会議員との交流並びに、国会見学会を開催いたしました。

弊協会・程金笙監事が代表處文化部を通じて、中華民国留日東京同学會と日程、参加人員を調整して開催の運びとなりました。

参議院議員会館で行われた懇談会では、自由民主党総務会長・小池百合子衆議院議員、公明党・西田実仁参議院議員、協会副会長・大江康弘参議院議員、協合理事・並木正芳前衆議院議員、並びに財団法人交流協会・亀井啓次総務部長、台北駐日経

済文化代表處・林默章文化部次長、同郭仲熙業務部次長、同王建華業務部首席課長、協会からは、玉澤徳一郎会長、崎谷秀彦専務理事、程金笙監事、南部晴彦事務局長らが、司会・張建國副会長より紹介された。

玉澤会長は「中華民国・台湾は重要な国であり、国交はなくても国民と国民の友好関係は存在する。台湾が自由、人権、民主主義が守られる社会が続いていくことが一番大事だ」と挨拶した。

続いて、挨拶した林默章次長は、台湾の教育部が二〇〇四年より高校生の海外教育旅行（修学旅行）を推進し、多くの台湾の高校生が日本を訪問しているほか、昨年から実施された台日ワーキングホリデー制度によつて、ますます台日青年交流が緊密になっていることを説明された。

小池百合子衆議院議員は、「私の最初の海外旅行先は台湾であった」「台湾と日本に共通するのはアジアの国であり、民主主義を実践していること」と指摘し、国会での活発な議論などを含む「言論の自由」の大切さを話された。司会者より十年前の台湾中部大地震の際、日本の国会議員として、最初に現地視察されたと紹介された。

雑誌「週刊東洋経済」副編集長を務めた経歴を持つ、西田実仁参議院議員は、冒頭に中国語で自己紹介をした後、当時の台湾取材の経験語り、台日関係の重要性を強調された。

協会副会長・大江康弘参議院議員は、出席された台湾留学生に、日本を留学先に選んだことに感謝の意と今後の期待を示したほか、あしなが学生募金・大学

奨学金について、一〇月は二回、今月も台湾を訪問し、積極的に友好親善関係促進に取り組んでいくことを話された。

続いて、質疑応答では、日本の外交政策、選挙と民主主義の欠点、外国人参政権、外国人登録証の台湾に関する国籍表記、国家資格制度、円高と為替介入、インターネットを活用した政治など幅広いテーマについて、熱心な意見交換が行われた。

昼食後、国会議事堂見学、参議院議場、天皇陛下の「御休所」、中央広場等見学後、国会議事堂をバックに記念撮影を行った。

憲政記念館で、憲政一二〇周年「政党政治への道―議会開幕から本格的政党内閣誕生へ―」特別展も見学し、日本の政党史への理解を深めた。

謹 賀 新 年 平成二十三年

台北駐日經濟文化代表處 代表 馮 寄台	財団法人交流協会 理事長 畠中 篤	財団法人台灣協会 会長 園部 逸夫 理事長 齋藤 毅	日華親善協会全国連台会 会長 平沼 赳夫 東京都千代田区永田町一、十一、一八 相互永田町ビル二階 電話〇三(二五〇)五八六一
自由民主党国会対策副委員長 衆議院議員 井上 信治 東京都千代田区永田町二、二、一 衆議院第一議員会館二七号室 電話〇三(二五〇)七三八	衆議院議員 大野 功統 東京都千代田区永田町二、二、一 衆議院第一議員会館二二一号室 電話〇三(二五〇)七三三一	参議院公明党国会対策委員長 参議院議員 魚住 裕一郎 東京都千代田区永田町一、一、一 参議院議員会館二六号室 電話〇三(六五五)〇三二六	衆議院議員 金子 恭之 東京都千代田区永田町二、二、一 衆議院第一議員会館一〇号室 電話〇三(二五〇)七四一〇
外交防衛委員会筆頭理事 参議院議員 岸 信夫 東京都千代田区永田町二、二、一 参議院議員会館二〇三号室 電話〇三(六五五)一〇〇二	国民新党幹事長 衆議院議員 下地 幹郎 東京都千代田区永田町二、二、一 衆議院第一議員会館九〇四号室 電話〇三(二五〇)七三八〇	参議院議員 松下 新平 東京都千代田区永田町一、一、一 参議院議員会館八四号室 電話〇三(六五五)〇八四	参議院議員 山本 順三 東京都千代田区永田町二、二、一 参議院議員会館一〇一九号室 電話〇三(六五五)一〇一九

謹 賀 新 年 平成二十三年

社団法人アフリカ開発協会 会 長 矢野 哲朗 東京都十代田区紀尾井町四番・一号 新紀尾井ビル二階 電話〇三(三五一)八九二	ヤマザキ・ナビスコ株式会社 代表取締役社長 飯島 茂彰 東京都新宿区西新宿一・二六・二 新信野ビル四〇階 電話〇三(三三四)六二二	日本中華聯合總會 會 長 劉 東光 東京都港区金五・一九・一五 電話〇三(四四七)〇七八九 FAX〇三(四四七)〇八三七	中華民國留日横浜華僑總會 會 長 李 瑞昇 神奈川県横浜市中区山下町一四〇 電話〇四五(六八)二二四 FAX〇四五(六〇)一八五五
東京日華親善協会 会 長 山蔭 基央 東京都渋谷区千駄ヶ谷一・八・二 日興ハレスビル五階 電話〇三(三三七)七〇八七	後藤泌尿器科皮膚科医院 院 長 後藤 康文 埼玉県草加市大通一・三・一四 電話〇一九三(六八)二六二〇	台湾觀光協会東京事務所 所 長 黄 怡平 東京都港区西新橋一・五・八 川手ビル二階 電話〇三(五〇二)三五九一	チャイナエアラインズグループ ㈱ダイナステイ ホリデー 代表取締役社長 國廣 傑 東京都中央区銀座二・八・十三 銀座三丁目ビル 階 電話〇三(五五五)〇八八〇
有限会社沖山興業 代表取締役 沖山 建夫 東京都八丈島八丈町三根一八・五 電話〇四九六(二)〇二二	株式会社ホテル横須賀 代表取締役 長尾 和典 横須賀市米が浜通り一・一七 電話〇四六(八八五)一一二	株式会社昭和総合サービス 財団法人台湾協会会長 故松岡清・三男 代表取締役 松岡 晋 さいたま市浦和区高砂三・一四・一四 電話〇四八(八三三)八二〇〇	アジア問題懇話会 大陸問題研究会 会 長 高野 邦彦 東京都港区田五・一八・十二 電話〇三(四四四)五七四五

謹 賀 新 年 平成二十三年

衆議院議員 社団法人亜東親善協会 副会長 大江 康弘 東京都千代田区永田町二・一・一 参議院議員会館五〇九号室 電話〇二(六五五)〇五〇九	社団法人亜東親善協会 専務理事 崎谷 秀彦	社団法人亜東親善協会 理事 東 達夫 電話〇二(三四六七)二五五
社団法人亜東親善協会 副会長 池田 偵一郎 千葉県鎌倉市宮前二・十一・五 電話〇四(一四八二)三三三二	前内閣府大臣政務官(前衆議院議員) 社団法人亜東親善協会 理事 並木 正芳 東京都所沢市北有楽町二・十一・十一 電話〇四(二九四)八〇五〇 FAX〇四(九四八)五二	あざみ野ローンテニスクラブ 代表 益山 茂 横浜市青葉区あざみ野一・一九・一 電話〇四五(九〇二)九〇二一
社団法人亜東親善協会 副会長 張 建國	学校法人電子学園 理事長 多 忠和	株式会社自由新聞社 社長 黄 清林 東京都港区三田五・一八・二二 電話〇二(三四四六)二五五六
社団法人亜東親善協会 副会長 張 碧華	㈱マリノロジスティックス 代表取締役社長 小松 省二 東京都港区赤坂二・八・十四 丸玉第三ビル七階 電話〇二(六四二五)五〇八〇 FAX〇二(六五八二)四八四	日華仏教文化交流協会 東京都豊島区寿一・十九・一 電話〇二(三八四)二七二

社団法人亜東親善協会顧問

(五十音順・敬称略)

若林 正俊	山本 順三	山内 俊夫	村田 吉隆	松本 洋平	船田 元	林 幹雄	西村 真悟	中井 洽	田名部 匡省	高市 早苗	山東 昭子	坂本 剛二	岸 信夫	金子 恭之	奥野 信亮	遠藤 利明	魚住 裕一郎	石破 茂	麻生 太郎	安倍 晋三
鷺尾 英一郎	吉川 貴盛	山崎 正昭	森 喜朗	水野 賢一	古屋 圭司	平沢 勝栄	萩生 田光一	長島 昭久	谷川 秀善	高木 美智代	島尻 安伊子	笹川 堯	北村 茂男	亀井 久興	奥村 展三	大江 康弘	臼井 日出男	泉 信也	新井 悦二	愛知 和男
渡辺 博道	吉田 六左門	山根 隆治	矢野 哲朗	宮路 和明	前原 誠司	平田 健二	鳩山 邦夫	長勢 甚遠	谷川 弥一	高島 修一	下地 幹郎	佐藤 昭郎	小池 百合子	亀岡 偉民	嘉数 知賢	大野 松茂	内山 晃	岩城 光英	井上 信治	赤池 誠章
渡部 篤	吉村 剛太郎	山本 明彦	谷津 義男	村上 誠一郎	松下 新平	平沼 赳夫	浜 四津敏子	中村 喜四郎	鶴保 庸介	棚橋 泰文	世耕 弘成	佐藤 剛男	小島 敏男	神取 忍	金子 善次郎	大野 功統	江崎 洋一郎	岩屋 毅	伊藤 公介	秋元 司

社団法人亜東親善協会顧問 (順不同・敬称略)

馮 林 楊 羅	寄 錦 作 王	台 清 洲 明珠	中田 小田 李 謝	宏 村四郎 海天 文	畠中 黄 李 橘	篤 林 昇 康太郎	齋藤 林 鄭	篠 瑞 尊	毅 祥 仁	劉 長尾 李	東 孝 純	光 則 京
---------	---------	----------	-----------	------------	----------	-----------	--------	-------	-------	--------	-------	-------

社団法人亜東親善協会役員名簿

[会 長]	玉澤徳一郎																			
[副 会 長]	池田 偵一郎	張 建 國	張 碧 華	大江 康弘																
[専務理事]	崎谷 秀彦																			
[事務局長]	南部 晴彦																			
[総務担当]	仲谷 俊郎	[組織担当]	益山 茂	[財務担当]	赤松 則宏															
[事業担当]	小松 省二	[国会担当]	橋本 靖男																	
[理 事]	千葉 健司	東 達夫	新井 秀子	李ハロルド	松永理恵子															
	多 忠和	三浦 信行	並木 正芳	伊野 雅晴																
[監 事]	荘司 隆一	藤山 雅康																		
[支 部 長]																				

[青森県]大見光男 [岩手県]高橋義麿 [茨城県]石川多門 [広島県]月村俊雄

お知らせ

【新春互礼会のご案内】

恒例の新春互礼会は平成二十三年二月十五日（火）午後六時
ホテル・ルポール麹町で開催致します。（会費一万円）

【講演会について】

新春互礼会に先立ち、第一次イラク復興業務支援隊長・参議院
議員佐藤正久先生をお迎えし、平成二十三年二月十五日（火）
午後五時よりホテル・ルポール麹町で開催致します。

【春節祭について】

＊ 中華民国建国百年関東実行委員会主催による、建国百年記念祭
一月二三日（日曜日）東京中華学校講堂で十時半より式典開始
＊ 中華民国留日横濱華僑總會主催春節會は一月二十日（木曜日）
十八時より横浜ローズホテルで開催されます。

【訪台団】

本年は中華民国建国百年。日本国内、台湾で色々なイベントが
開催されます。協会も奉祝訪台団を企画する予定です。ご意見
ご希望があれば事務局まで、ご連絡お待ち致しております。

編集後記

季刊「亜東」平成二三年新春号

＊皆様明けましておめでとうございます。

＊二〇一一年は中華民国建国百年、協会法人化四十周年に当り
寄稿依頼を致しました新春号に多くのご寄稿が有りました。

＊台湾留学生と顧問国会議員の交流会には、交流協会、台北駐日
経済文化代表處の方もご出席戴き、四〇名が参加し、昼食会後
国会議事堂見学、憲政記念館で特別展を見学しました。

＊協会の活性化を目指し、会員の拡充を図っています。

会員各位のご紹介により多くのご参加を期待致しております。

【年会費】①法人五万円以上。②賛助会員三万円。③個人一万円。

表題【亜東】は中華民国總統馬英九閣下の御揮毫です

季刊 **亜東** （アジアの架け橋）平成23年 新春号（No.36）

発行日 : 平成23年1月15日

発行所 : 社団法人亜東親善協会

編集人 : 南部晴彦

所在地 : 〒102-0093 東京都千代田区平河町2-7-5 砂防会館4階

Tel:03-3261-6405 Fax:03-3556-5770

H P : <http://homepage3.nifty.com/atousinzen>

印刷 : ヨシダ印刷株式会社

やすらぎの空、快適な翼。

